



して榮え、現在でも石垣や土塀に囲まれた旧武家屋敷が続いており、この屋敷町がつきまるところには飢肥城跡があり、

市では昭和五二年に「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されたのを機に、以来飢肥城の復元、武家屋敷の整備保存に市民をあげて取り組んできた。国道二二三号拡幅による家屋の新・改築にあたつても、商店会が中心となつて、昔ながらの家並みを復元するとともに、緑台、ゴミ箱、バス停標識などのデザインを工夫したり、街角に特産品の飢肥杉を使った江戸風案内板やプランター、木灯ろうなどを配したりして商人町通りの町並みを再現した。また、統一包装紙や城下町観光マップの作成、コイの放流や手づくり人力車の運行などに加え、祭りやイベントにも総参加体制で臨み、いきいきとした街づくりに全力で取り組んでいる。